

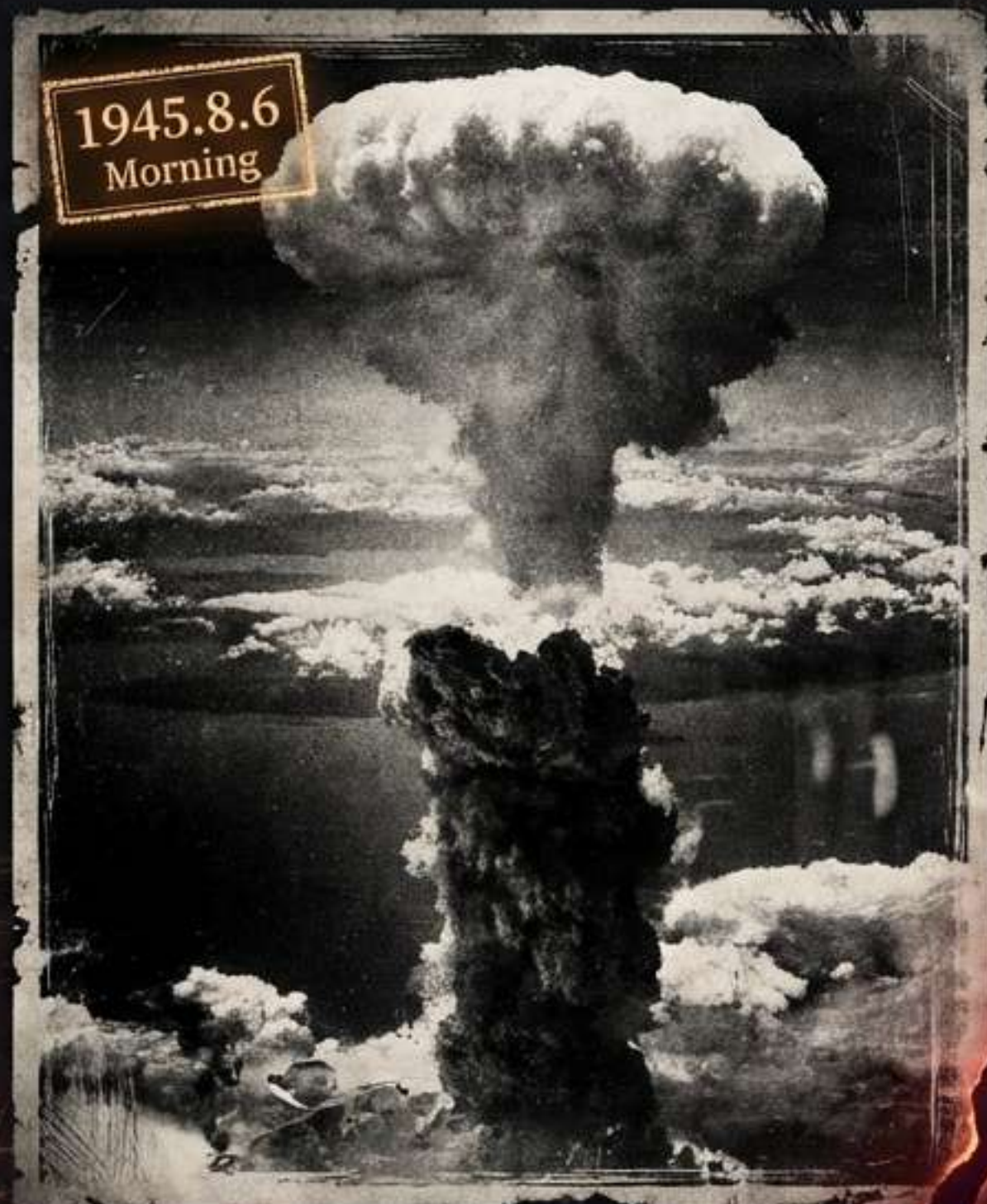


# 黙示録の幻視者：ノバート・コックス

ヒロシマの予兆から生まれた「預言的シュルレアリスム」の世界

アウトローのバイカーから荒野の隠遁者へ。そして、神の暗号を解く画家へ。  
ノバート・コックス（1945-2018）の生涯は、偶然の一致を超えた「運命」の物語である。

# 1945年の予兆：核の夜明けと共に



## シンクロニシティ

ノバート・コックスは1945年8月6日、広島に原爆が投下されたわずか9時間後、ウィスコンシン州グリーンベイで生を受けた。

## 宿命

彼はこの偶然を単なる一致とは捉えず、自らの人生が「終末の時代の記録者」として運命づけられているしるし (Omen) であると確信していた。

## 光と闇

彼の芸術における「暗闇の中で輝く強烈な光」というテーマは、この破壊的な「核の火」のイメージに原点を持つ。

# 堕ちた天使のアウトロー時代



## Born to be Wild

青年期のコックスは軍隊を経て、バイカー・ギャング「アウトローズ (Outlaws)」の一員となった。

## 機械的・物質的没頭

彼はカスタムバイクや改造車の製作に熱中し、その機械的な美学は後の芸術作品に見られる緻密な構成力に影響を与えた。

## 深淵

アルコールと薬物に溺れる日々。しかし、1975年の薬物過剰摂取による臨死体験が、劇的な霊的覚醒 (メタノイア) の引き金となる。

# 荒野の10年と「福音の道」

## 隠遁

30歳での覚醒後、彼は俗世を捨て、ウィスコンシンの森の中に「福音の道 (Gospel Way)」と名付けた独自の礼拝堂兼アトリエを建設した。

## 沈黙と研究

10年間にわたり隠遁生活を送り、孤独の中で聖書を徹底的に研究。900ページに及ぶ独自の予言書を執筆した。

## 直接的な啓示

彼は既成の教会に頼らず、神との直接的な対話を通じて真理を探究する道を選んだ。これが彼の芸術の精神的支柱となる。



# マスカレード：偽りの 「代用品」を告発する



## 代用品の文化

コックスは、現代社会が「偽物 (Counterfeit)」で溢れていると説いた。フェイク・シュガー、フェイク・ファー、そして「フェイク・キリスト教」。

## 宗教的詐欺

彼は、現代の教会が本来の教えを歪め、異教的なシンボル（サンタクロースやイースターバニーなど）を混ぜ込んだ「見世物」になっていると痛烈に批判した。

## ベールを剥ぐ

彼の芸術活動は、この「宗教的マスカレード（仮面舞踏会）」のベールを剥ぎ取り、隠された、時に恐ろしい真実を視覚的に提示するミッションとなった。

# 黙示録的シュルレアリスムの技法

## 独学の錬金術:

彼は独学でありながら、大学で教鞭をとるほどの技術を習得した。特にこだわったのは「光」の表現である。

## グレイジング技法:

ルネサンス期の巨匠（ヤン・ファン・エイクなど）のように、アクリルと油彩の透明な層を何度も塗り重ねる「グレイジング」技法を駆使した。

## 内なる発光:

この技法により、描かれたグロテスクな主題（骸骨や異形の怪物)であっても、内側から発光しているような神々しい美しさと、幻惑的な奥行きを帯びている。



# ワーナー・サルマンの「キリストの顔」の謎



Warner Sallman (1940)

Léon Lhermitte (1892)



Norbert Kox  
Reinterpretation

## 国民的アイコンの正体:

アメリカで最も愛されたワーナー・サルマン作の「キリストの肖像画 (1940年)」が、実はレオン・レルミットの絵画『エマオ (1892年)』からの盗作であることをコックスは見抜いた。

## 滅びの子:

彼はこの事実を「現代キリスト教の欺瞞」の象徴と捉えた。自身の作品の中で、この有名なキリストの顔を「滅びの子」や悪魔的な存在として描き変え、物議を醸した。

## 偶像破壊:

これは単なる批判ではなく、盲目的に信じられているイメージの裏側を検証せよという、鑑賞者への挑戦状でもあった。

# 肉に宿る霊：生物学的黙示録

**衝撃的なビジョン:** コックスはある時、地球が卵のように割れ、そこから巨大な拳や胎児が現れる幻視を見た。その胎児は電気的な音を発していたという。

**肉体という檻:** 彼は人間を「肉 (Meat) に宿る霊」と定義した。皮膚が剥がれ血管が露出した人体や、機械と融合した肉体は、物質界の崩壊と、そこに閉じ込められた霊性の葛藤を表現している。

**永遠の封印:** 「粘土の器に封印された永遠」。彼の描くグロテスクなイメージは、肉体という限界を超えようとする霊の叫びである。



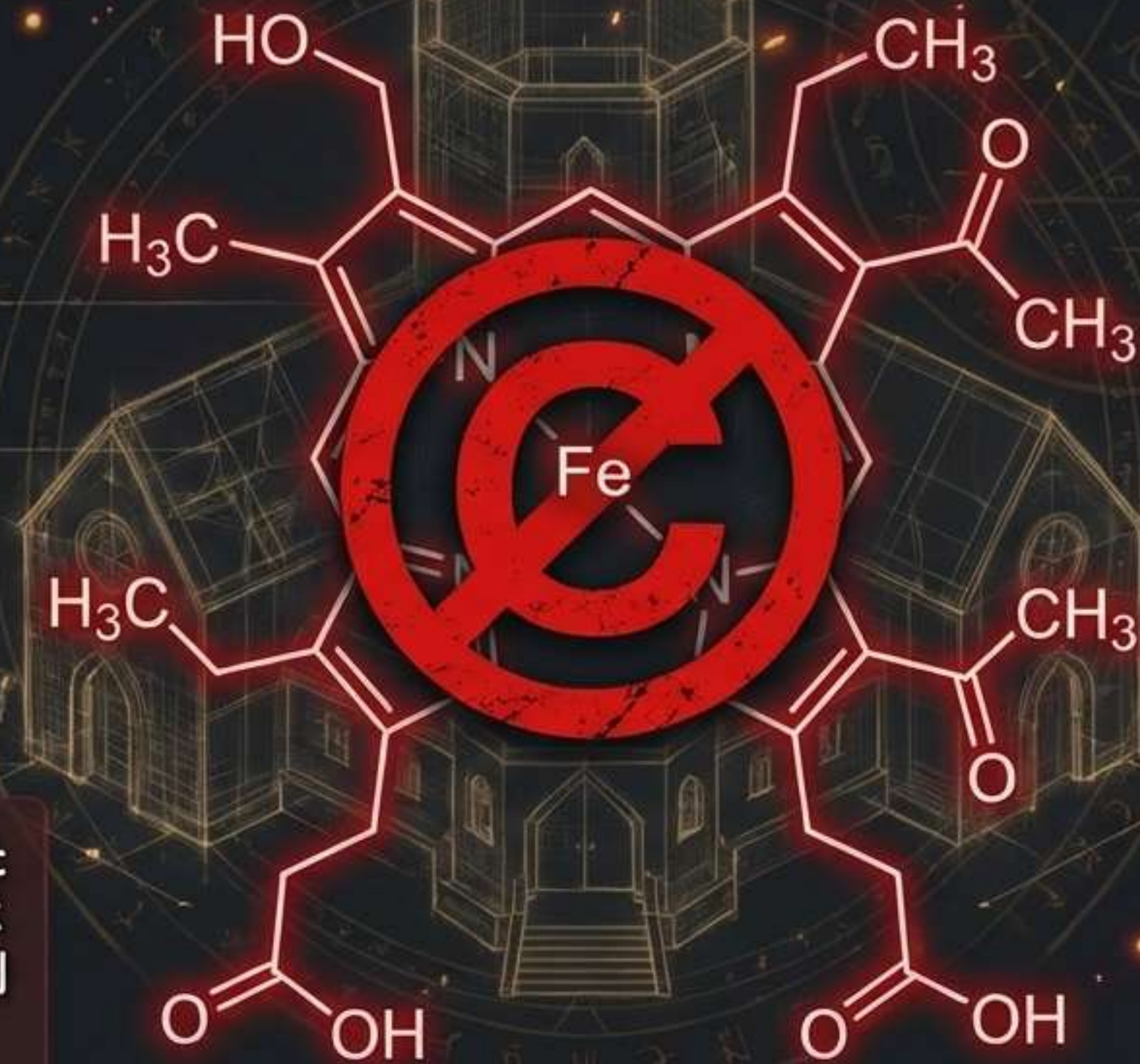


# 鉄分子と神の著作権

**Fe(鉄)の神秘:** コックスは、血液中で酸素を運ぶ「鉄分子」の構造に神聖な署名を見出していた。鉄は生命維持に不可欠な神のデザインである。

**著作権騒動:** ある建物の写真をもとに絵を描こうとした際、その建物が「著作権で保護されている」と警告されたことに彼は激怒した。

**神への冒涇:** 「鉄分子の構造(神の創造物)を模した形に、人間が著作権を主張するなど冒涇だ」。彼はこの怒りをエネルギーに変え、人間の傲慢さを風刺する強烈な作品を描き上げた。



# キャンバスに隠された暗号： バイブル・コード



**マトリックスの解説:** 1990年代後半以降、コックスは「バイブル・コード（聖書のヘブライ語テキストに等間隔で隠された文字列）」を作品に取り入れた。

**視覚的預言:** 彼はコンピュータ解析で見つけ出した「暗号」をキャンバス上の風景や人物の肌に書き込んだ。

**警告の書:** これにより、彼の作品は単なるシュルレアリスム絵画から、解読可能な警告を含んだ「預言の書」へと変貌した。

# 「狂気」と「アカデミズム」の境界線

## ACADEMIA (アカデミズム)



## OUTSIDER (アウトサイダー)



- **アウトサイダー・アートの巨匠:** 彼の作品はボルチモアのアメリカン・ヴィジョナリー・アート・ミュージアム (AVAM) などで高く評価されたが、常に「狂気」と「信仰」の境界線上で語られた。
- **大学講師としての顔:** 一方で、彼はウィスコンシン大学グリーンベイ校で15年にわたり美術講師を務め、その高度なグレイジング技法を学生たちに伝授していた。
- **二つの世界の住人:** 彼は「内側 (アカデミズム)」の技術を持ちながら、「外側 (アウトサイダー)」のビジョンを描き続けた稀有な存在だった。

# 共有された幻視：ウィリアム・トーマス・トンプソンとの共作

**預言者たちの同盟:** コックスは、同じく黙示録的なヴィジョンを持つアーティスト、ウィリアム・トーマス・トンプソンと深い親交を結んだ。

**巨大な警告:** 二人は『The Gathering』のような巨大な壁画サイズの作品を共同制作した。コックスの緻密な光の表現と、トンプソンの壮大な物語性が融合し、圧倒的な終末の光景を生み出した。

**孤独からの解放:** 「監視者 (Watchman)」としての重荷を共有できる同胞の存在は、彼の晩年の創作における重要な支えとなった。



# 遺されたメッセージ: 「自らの目で確かめよ」

**探求者への遺言:** 2018年に亡くなるまで、コックスは「自分の目で確かめよ」と訴え続けた。

**真実の直視:** 彼の芸術は、与えられた教義や「代用品 (Substitutes)」に満足せず、たとえそれがどれほど恐ろしい姿をしていても、ベールの向こうにある真実を直視する勇気を持つよう、私たちに挑んでいる。

**終わりのない開示:** ヒロシマの予兆から始った彼の旅は、キャンバスの上で永遠に続く「黙示録の開示」として、今も好奇心あふれる探求者たちを待ち受けている。



**"Investigate  
for yourself."**